

令和元年度富谷市市民協働セミナー

住民主体の地域づくりについて ～考え方と取組～

報 告 書



日 時	令和元年11月10日(日)
	午前9時00分～11時30分
場 所	富谷市役所3階会議室

富谷市総務部市民協働課

【目的】

本市総合計画に掲げる「市民の思いを協働でつくるまち」を一層推進するため、市民が協働の基本的な考え方について理解を深め、実際の活動事例等を通して、協働を学ぶとともに交流の機会とするため、市民向けに開催するもの。

【プログラム】

1. 開会（9：00）
2. あいさつ 富谷市長 若生 裕俊
3. 講義
 テーマ：住民主体の地域づくりについて ～考え方と取組～
 講 師：東北学院大学 地域共生推進機構 特任教授 本間 照雄 氏
4. 活動紹介

富ヶ丘北部町内会	会長 菅原 次男 氏
NPO法人さぽーと・おるいず	代表 後藤 幸子 氏
どんぐりの会	代表 戸嶋 さち 氏
はにかむ富谷	代表 若生 大 氏
5. ワークショップ
6. まとめ
7. 閉会（11：30）

【講師略歴】

東北学院大学 地域共生推進機構 特任教授 ほんま てるお 本間 照雄 氏

- 1950（昭和 25）年宮城県中新田町（現加美町）生まれ
- 宮城県職員として勤務する傍ら、東北学院大学人間情報学研究科修士課程修了（1998 年 3 月）東北大学大学院文学研究科で福祉社会学を専攻し博士課程を満期退学（2009 年 3 月）
- 宮城県庁長寿社会政策課、地域福祉課等を歴任し 2011（平成 23）年 3 月定年退職
- 2011（平成 23）年 4 月、被災地宮城県南三陸町に赴き南三陸町福祉アドバイザーに就任
- 2014（平成 26）年 4 月、宮城県県社会福祉協議会復興支援アドバイザー、宮城県サポートセンター支援事務所地域福祉アドバイザーとして宮城県内外の被災地支援に奔走
- 2016（平成 28）年 2 月から現職。2015（平成 27）年度に創設された地域教育科目を担当

＜主な研究＞

- ①「災害ボランティア活動の展開と新たな課題」『社会学年報』,2014.
- ②「これ以上尊い命を失いたくない一市民が取り組む被災者支援」『環境と公害』,2014.
- ③「沿岸部被災地における被災者支援の現状と課題」『社会学研究』,2013.
- ④「知的障害を持つ二人の日常にみる地域生活の実像」永井彰編『地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究』,2008.

【富谷市長 若生 裕俊】



皆さん、おはようございます。本日は、令和元年度富谷市市民協働セミナーにこのように多くの皆さんにご参加いただきましたこと、まずは心から御礼を申し上げたいと思います。

今の時代は、行政で全て担える時代ではなくなってきた中で、いかに市民の皆さんのお力を、そして市民協働のまちづくりを実現していくかというのが、我々にとって大きな課題であるかと思っています。

そういった中で、様々な取組をしているところではございますが、これからも更に市民協働のまちづくりを進めていくうえで、一人でも多くの皆さんにご理解をいただき、なおかつ市民協働参画に向けて、リーダーとしてそれぞれの地域や立場で活動に参加していただきたいということで、このセミナーを開催しているところでございます。

本日は、講師として大変お忙しいところ、本間照雄先生においでいただきました。

本間先生は、ご承知の方も多いと思いますが、県職員時代から、富谷市の福祉関係でいろいろとお世話になってきたわけではございますが、退職後も引き続き東北学院大学の特任教授として、様々な形でお世話になってまいりました。

今日は、本間先生にご講義をいただき、その後には、4団体の皆様方の実践報告をしていただき、その活動報告を踏まえてワークショップを行い、皆さんと共有しながら、今後に向けた学びの場にしていただければと思っているところでございます。

限られた時間ではございますが、市民協働のまちづくりの実現に向けて、皆さんと共に歩んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

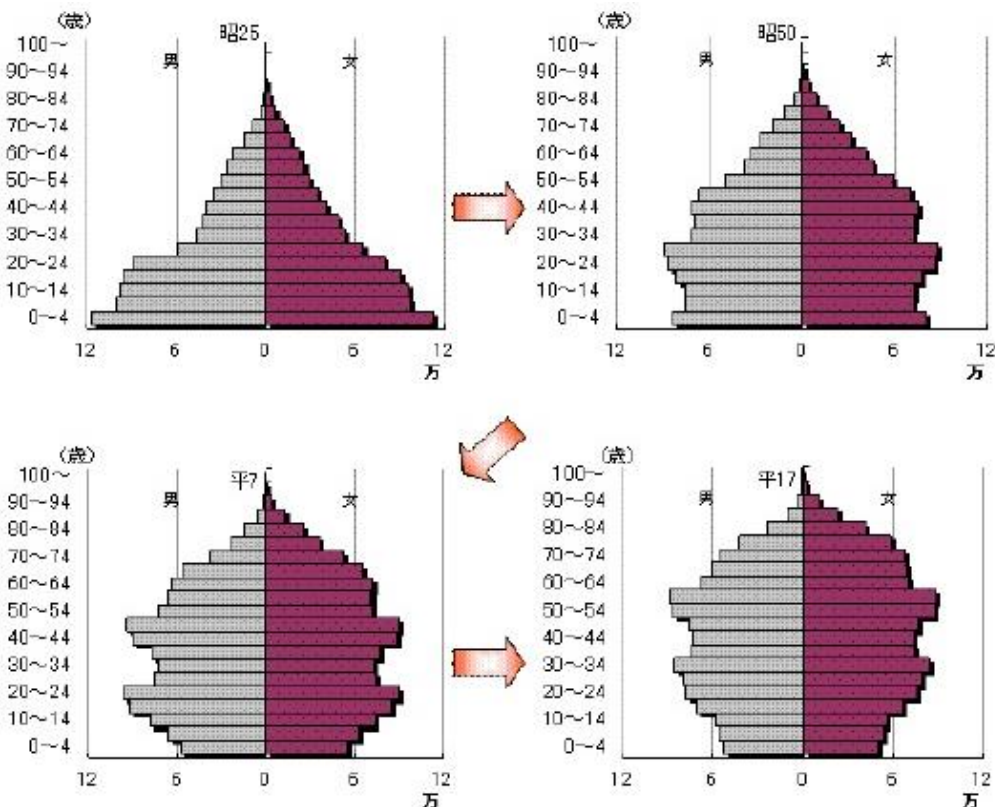
【東北学院大学 地域共生推進機構 特任教授 本間 照雄 氏】



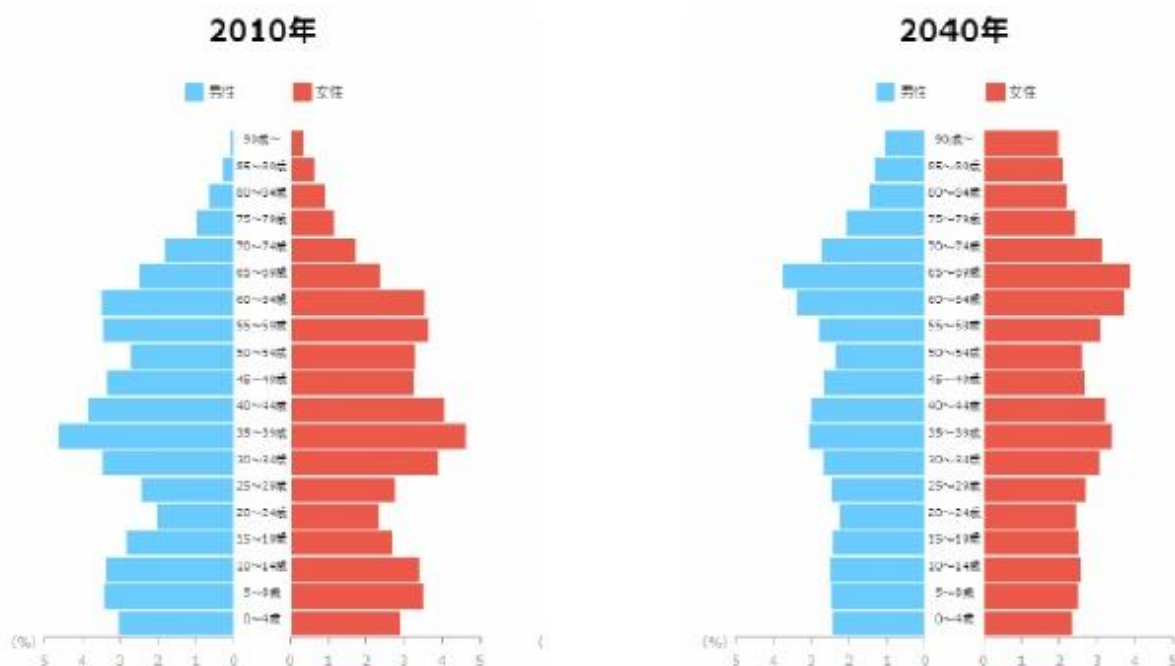
皆さん、おはようございます。休日の中おいでいただき、ありがとうございます。ぱっと見て、参加者の年齢の幅が非常に広く、それを見ただけで富谷市の勢いを感じるような気がしております。今日は、前半に私のお話をさせていただくのですが、主役はこの後の4名の方々のお話です。私は、そのための前座です。気楽に聞いてください。若干の時間ですが、どうぞよろしく申し上げます。

今、私たちはどのような世の中で暮らしているのか

下記のグラフは、皆さんがよく見る人口ピラミッドです。左上の三角形は昭和25年ですので、ちょうど私が生まれた頃はこのような人口構成でした。それがだんだん釣り鐘型になり、実はこれがもっとすごいことになっているのを見てみたいと思います。右上が昭和50年頃です。左下がだいたい現在だと思えます。これがどんどん進み、40年後くらいは右下のようになります。これは単なる予想ではありません。統計学的な法則によるものです。40年後と言うと、私はこの頃には戒名をいただいているから知りませんなどと言う人がいるのですが、この世界で少なくとも、皆さんのお子さんやお孫さんが生きています。これを前提にしたまちづくり、地域づくりを今から進めていかななくてはならないということです。



これを富谷市に当てはめると、下記のグラフのようになります。左側が2010年、右側が2040年です。他の市町村と比べると若干子どもの減り方が小さいので、先ほど見たところよりは若干良いような気がするのですが、いずれこのような状況になります。将来人口は、2050年あたりが富谷市のピークになると予想されております。そしてどんどん下がっていきます。富谷市でも独自に統計しているのですが、目標人口6万人、これが2060年ということとなっております。富谷市に勢いがある時間は、30年、40年くらいです。ですから、この右肩上がりの勢いのある30年で、いかなるまちづくりをするかがとても大事になっております。皆さんはどのようなまちにしたいのか、この勢いのある間に、これから先のまちづくりの礎をつくり、レールを引くこととなります。そのときの主役は皆さんだと私は思っています。



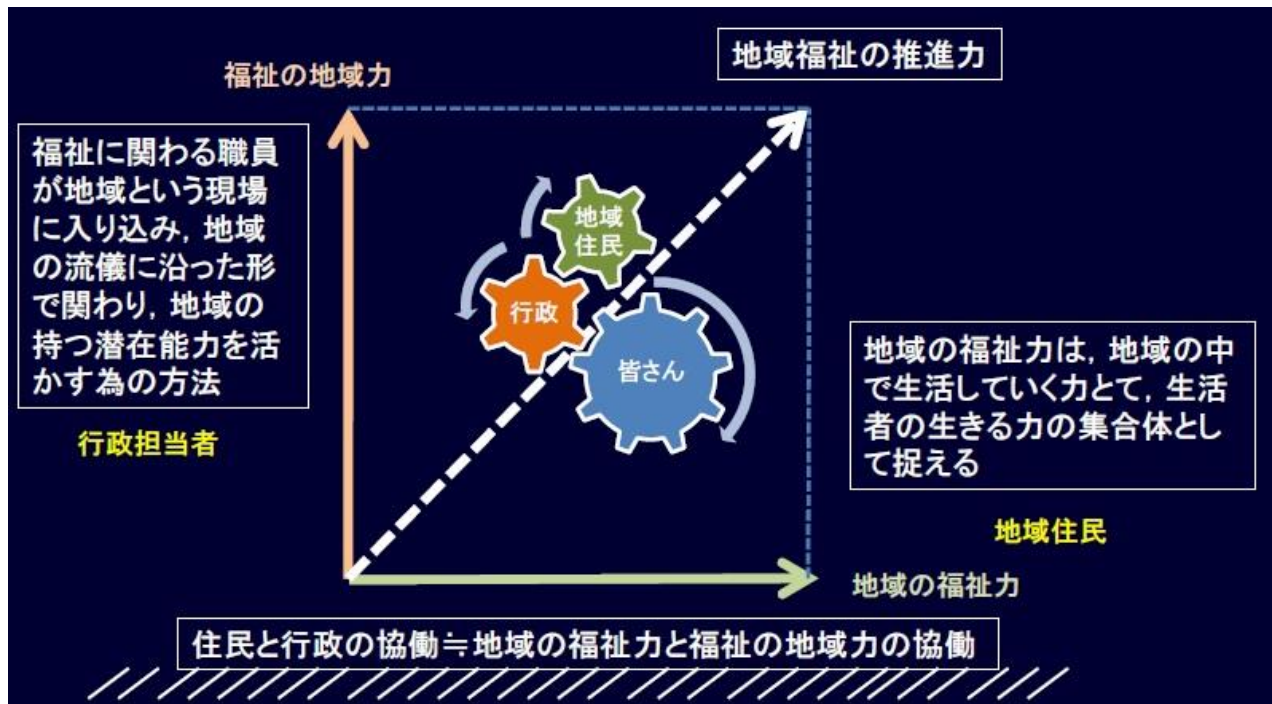
協働の必然性

私は、協働というのは決して特別なことではないと思っています。協働を推進する力は、二つあります。それは、福祉の地域力と、地域の福祉力という大きな力です。その合力で、地域福祉を進めていくということです。そのとき、地域住民と行政、地元の社会資源がうまく回っていくようにコーディネートする、それがここにお集まりの皆さんなのではないかと思っています。

協働するときの基本的な考え方は、「足るを知る」ということです。協働というのは、無いものねだりをするのではないということです。今あるものをうまく使っていく。そのようなところに、協働の醍醐味があるのではないかと思います。

一般的に協働というのは、複数の主体（住民）が、何らかの目標を共有し、共に力を合わせて活動することと言われています。ここで大事ななのは、目標を共有することです。様々な方々が集まって、それぞれの立場でやりたいことを出し合い、それをうまくまとめて大きな力にしていく。それが協働です。そのために、協働概念を構成する要素としては、このようなことが挙げられています。一番大事ななのは、目標の

共有化です。何をしたいのか、どこに向かおうとしているのか、それをみんなで話し合うことがとても大事です。今、私たちは、協働をテーマにしてここで勉強会をしておりますが、ここでも様々な意見を出し合いながら共有していくことがとても大事なのではないかと思ひます。それから、お互いに上下関係はないのだという、主体間の並立、対等性もとても大事な要素ではないかと思ひます。また、補完性の確保、責任の共有、求同尊異の原則確立など様々なことが言われています。これが、協働の考え方です。



もう一つ、協働といったときに、一般的に官民協働ということも言われます。行政と住民が、いかに協働するかが強調されているのですが、私は実は二つの協働があるのではないかと考えております。まず、住民と地元にある社会資源、地域社会がうまく協働する、手をつなぎ合う、それが第一にあります。それがうまく絡み合えるように、行政がバックアップするという協働もあります。この二つの協働が、うまく絡み合って初めて効果的な協働が成立するのではないかと考えております。ですから、ぜひ、皆さんも周りとの協働を意識して、それがうまく回るように行政がバックアップする。そんな協働の姿を皆さんで共有していただければと考えております。協働を進めるには、コーディネーターが必要です。ただ協働といってもなかなか進まない。そのときに言い出しっぺが必要です。協働を進めるコーディネーターに資格や特別な能力は必要ありません。必要なのは、こんなまちにしたい、こんなまちだったらいいな、このような思いを重ねた自分の住むまちへの誇りと愛着だけです。私は、これがあればコーディネーターになれるのではないかと考えています。世の中には、いろいろなライセンスを持ったコーディネーターと言われる方がたくさんいるわけですが、そのような方だけがコーディネーターではありません。ここにお集まりのような方々が、私は本当の意味でのコーディネーターなのではないかと考えております。理由は、繰り返しますが、自分の住むまちへの誇りと愛着を持っている方々だからです。皆さんの振る舞いは、リテラシー（活動能力・知識）をアップさせます。誰の能力や知識をアップさせるのかと言うと、周りの一般住民です。それから、行政の能力も高めます。行政の一番の先生は、住民です。皆さんの振る舞いが、

行政を変えます。皆さんの振る舞いは、とても大きいのではないかと私は思います。

そしてこの協働は、必要不可欠な社会システムです。今日私たちは、自助、共助、公助が合わさって一つの元気な地域社会をつくっています。そのような中、自分のことは自分ですという自助が、人口の高齢化や一人世帯が多くなっているなどの状況で、だんだんと弱くなってきています。家庭のことは全部家庭で解決するのはなかなか難しい世の中になっています。それから公助についても、一から十まで全部役所がやるというような状態にはなっていません。だんだん、自助と公助が小さくなっています。そのときこそ、お互いに支え合おうという共助を大きくして、自助と公助が支え、うまく回るようにしていく。そのときに公助は、非制度的、制度的な公共や、商助と言われる市場や企業の社会貢献、いわゆるCSR（Corporate Social Responsibility）も巻き込みながら、私たちはこの共助をつくり上げていくことがとても必要なのではないかと考えています。

これは皆さんも高校のときなどに勉強したのではないかとと思うのですが、ゲメインシャフトとゲゼルシャフトというものがあります。私たちが、これからコミュニティづくりをやっていくときに、どちらの方法でコミュニティをつくっていくかという皆さんへの問いです。一つは、血縁、地縁、友情などにより自然発生した社会集団、これをゲメインシャフトといいます。ですから、隣近所との関係はどちらかと言うとこのゲメインシャフトによる社会となります。もう一つは、利害関係に基づいて人為的につくられた社会集団、利益集団です。これはゲゼルシャフトです。ですから、私たちがこれから地域づくりをする、協働のまちづくりをするときにどちらで進めているのか、コミュニティ活動をどちらで進めていくかといったときに、おのずと大体想像がつくと思います。

まとめにかえて

私は、皆さんがやっていること、自分自身がやっていることに価値を見出してもらいたいと思っています。皆さんは、CSWer（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）だと私は思っています。CSWerは、世界的にこのように定義されています。CSWerというのは、人間の権利の増進を目指し、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図る。そのような人をCSWerと言うのだそうです。すなわち、皆さんそのものがCSWerなのではないかと思っています。皆さんは今までCSWerということを実感したことはないと思うのですが、学問の世界ではこのように言われています。自分の住むまち、人間の権利の増進を目指して社会改革を進め、よりよい社会をつくっていくという人、そしてなにより人間関係における問題解決を図る。そのような人がCSWerだと思っていますので、皆さんは今日からCSWerだと思ってください。もし、名刺を作る機会があれば、富谷市CSWerと書いてください。皆さんは、協働、お互い様をつくり出す、扇の要だと思っています。皆さんの振る舞いの後ろ姿が、市民の意識を導いていくと思っています。皆さんの一挙手一投足が、他の多くの方に大きな影響を与えるのではないかと考えております。

最後に、皆さんもご存知の方がいるかとは思いますが、この言葉をお伝えして終わりにしたいと思っています。J. F. ケネディ第35代アメリカ合衆国大統領の就任演説のときに、このように彼は言っていました。「新たな世界の建設は、最初の100日間では果たせまい。最初の1000日間でも、この政権の間でも、そしておそらくは我々のこの惑星上における一生の間ですらも果たせないかもしれない。それでも、始めようではないか。国家が諸君のために何ができるか問わないで欲しい。諸君が国家のために何

ができるのか問うて欲しい。」このように国民に述べ、訴えました。私は富谷市においても、全く同じことが言えるのではないかと思います。皆さんが富谷市に何をしてもらいたいかということではなく、皆さん自身が富谷市に何ができるのかを問う、そのような力が富谷市の安心安全をつくっていくと思います。

中尊寺に、金澤翔子さんが書いた「夢」という字が奉納されています。私たちは、夢というものを信じられるようなまちづくりを、皆さんの手でやっていきたいと思っております。今日ここに市長がおいでですが、市長とはどのような存在だと思えますか。私は、市長は応援団長だと思っております。市役所職員は応援団員だと思っております。誰を応援するのかというと、それは市民です。市民が安心安全な暮らしをできるように、応援団長となって笛を吹き、手を振り、皆さんの心を一つにまとめる、そのような存在が市長だと思えます。ぜひ、皆さんの声を市長に届け、市長が皆さんの声を皆さんに代わって施策に展開する。そのような循環がこのまちで当たり前の社会システムとして行われるようになれば、きっとこれからの30年は勢いのある時間になり、人口が下がっていったとしても非常に元気のあるまちをつくっていけるのではないかと考えております。前座の話はこれで終わりにして、これからは4名の方の貴重な発表に移りたいと思えます。ありがとうございました。

質疑応答

【参加者の質問】

今日の本間先生の話の内容には全く賛成で、自分でも実践しているつもりです。本日、うちの町内会の十数名の班では3時から飲み会です。これは一番の基本だと思っております。ところがそこで問題なのが、一つは町内会に入っていない人がいるということです。それから、仕事で休みの人がいるということです。これをどう捉えてやっていけばいいのかということです。

【本間先生の回答】

ありがとうございます。町内会で飲み会をやっているだけで、素晴らしいことだと思います。飲み会とは、酒を飲むだけではないのです。酒は単なるツールであって、そこで皆さんがいろいろなお話をするとところが本来の目的だと思います。

そうしたときに、特に町内会と言うと、参加する人はご高齢の方が多くて、若い人たちはなかなか来ないのだという例がとて多いです。私はそれを悪くはしていません。若い人には、たくさん仕事をしてもらえばいいです。たくさん仕事をして、きちりと税金を納めてもらえばいいです。そのフォローで、仕事を卒業した人が地域のことは俺たちに任せろというようにして、若い人たちが一生懸命仕事ができる環境をつくってあげる。そこに仕事を卒業した人たちの役割を見出せばいいのではないかと考えています。それから、なかなか来ない人もいらっしゃるというのもまた事実です。一番問題なのは、どうせ来ないからといって声かけを諦めてしまうことです。そうすると、その人がいるのにいないことになってしまふし、それを透明人間化するといいます。そのようなことについては、いつ切り替わるかわからないので、諦めないで、透明人間化しないで、いろいろな場面で声をかける。町内会の集まりのときだけ声をかけるのではなくて、普通の生活の中であいさつをするとか、そういうことを細々でもいいからつないでいく。それに尽きるのではないかと思います。



富ヶ丘北部町内会 会長 菅原 次男 さん



今日は、富ヶ丘北部町内会で7時から一斉清掃と、子ども会の廃品回収がありました。8時半からは日吉台中学校の地域居住生徒との防災訓練が行われています。これが町内会の自主防災組織のベスト（上着）です。このままで来ました。

今日の、日吉台中学校と町内会自主防災組織との合同防災訓練ですが、これが富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組、地域学校協働活動「学校を核とした地域づくり」です。中学生の子どもたちが地域に来て、地域の一員として、地域の大人と一緒に防災訓練を行うことが、子どもを育み大人も育み、共に地域を育み、地域の教育力を高め、地域を元気にする。この地域学校協働活動が、生涯学習課が目指している生涯学習社会の広がりへつながると思います。協働教育は、生きがいづくりや自己実現と言われていますが、生きがいや自己実現はいろいろあっていいので、社会貢献、地域貢献の勧めがいいと思っています。社会教育の基盤は、人づくり、つながりづくり、地域づくりです。

みんなのまちはみんなで作ろう

生涯学習社会をつくる活動と、町内会活動等を考えました。これから、ボランティアの会やNPOの方

の発表がありますが、町内会は同じ地域の縁で居住する住民でつくった地縁組織です。原則全世帯加入ですが、自由加入です。強制のないコミュニティが理想と思いますが、そこにはフリーライダー、受益は被るが、費用は負担しない、労力は提供しない人が発生するのです。

自立的、自発的な新しい地域活動の実践は、全員の合意を得て行うのに期間が必要となります。その点、ボランティアやNPOの団体は、自己を尊重され、好きな仲間組織した自尊好縁団体だと思っています。これが、スピード感等の違いであり、地縁組織の課題と捉えています。地域活性化のため、会則を見直し、地域福祉の増進、文化と地域力の向上に努めるということをつけ加えました。それから理事を18名から20名以内に増やし、みんなで助け合って、支え合って、補い合って活動の充実を図るため、再度会則を改定しました。町内会は地域住民自治組織で、みんなのまちはみんなでつくろうということです。

町内会の関連組織と有志の活動

それから、自主防災組織は町内会の関連組織で、富ヶ丘北部町内会自主防災会、自主防災組織として別途会則、防災計画を作り、町内会の役員はスライドして活動しています。昨年は会則を改正して、個人情報取り扱いを追加し、避難行動要支援者の安否確認訓練を始めました。

町内会の組織は住民自治組織、自主防災組織と、もう一つ、街かどカフェ「縁が輪」の組織があります。これは毎週金曜日開店するので、輪番制の町内会の役員では難しいということでしたが、別途会則を作り町内会の下部組織として自主組織の街かどカフェ「縁が輪」として発足し、町内会の役員ではない街かどカフェサポーターで運営しています。自主防災組織は、自分の命は自分で守ろう。みんなのまちは、みんなで守ろうということになります。

自主組織、街かどカフェ「縁が輪」は、地域の居場所、街かどカフェで出会い、話し合い、笑い合い、認め合い、わかり合い、これを源として、支え合い、助け合いの共生社会づくりへつながるのかと思います。自主組織「縁が輪」は、地域のみんなが、地域で支え合おう、助け合おうということです。

そんな時、今日の話は、協働型社会をつくりましょうということです。考えると、町内会は生涯学習社会、共生社会、協働型社会の三つ全てを包含する組織だと思います。富ヶ丘北部町内会は、住民自治組織と地域運営を持っている。これでいいのかなと思っています。

その他に、地域の公園の除草を、市に2回から3回にしてほしいという要望ではなく、自分たちで除草しましょう、自分たちで低木のツツジの剪定をしましょうと有志で行っていますが、これもなぜ町内会で行わなければならないのかという話、社会的ジレンマになります。しかし、やろうと言う方もいます。その時の活動の根拠は、一般的には理論理性、損得計算ですが、実践理性、自律的が優先で納得解です。草刈りや剪定が趣味となり、楽しむ活動をしています。ご褒美なのでしょうか、ツツジの剪定中に、準絶滅危惧種の共生植物であるギンランの群生地を発見しました。地域の公園に愛着が湧いて、地域愛を育みます。

また、快適で美しい地域づくりのため、今年からできたとみやロードサポート制度に有志で登録して、除草や立ち木の枝払いを行っています。これは地域の方々に知ってもらった方がいいということで、アダプトサインの設置を市に要望しました。「地域が道路の緑地、公園の美化に努めています。市民の皆さん、公園を綺麗に使ってください。まちを綺麗にしましょう。」と地域が市民に呼びかけるサイン板です。このようなことも、市民協働のまちづくりだと思います。これから何ができるのか、知ること、気づくこと、

考えること、つなぐことが大切です。研修や今日のセミナー等を文書化し、役員の皆さんに説明、報告し、学びながら地域づくりを進めています。

「人と人とのつながり」は地域の資本力

地域力と考えたとき、会社の資本と同じように、地域に資本があると思います。資本は、地域の方々の経験と技能が人的資本。それから今までの地域行事があります。それを大切に維持していくこと、守ることが文化的資本。経済的資本は、やはり会員の加入率と積立金などです。最後は、人と人とのつながりが社会関係資本、いわば信頼、規範、交流です。この資本力の高い低いが地域力の差で、地域力向上のためには、人と人とのつながりが一番です。地域づくりは人づくりと、一人ひとりの人間力が地域の価値と未来を決めます。

最近、変革のための4つのCを学びました。チャンス（Chance）、チョイス（Choice）、チャレンジ（Challenge）、チェンジ（Change）です。チャンスは自分で気づく、見つける。チョイスは覚悟、選択。チャレンジは可能性を信じて積み重ねていく、継続する。チェンジは頑張ったご褒美、変革となります。そこで、チャンスをチョイスして、チャレンジしてチェンジすることを心掛けています。正直、相互扶助だとかは永遠に達成できないと思いますが、永遠に言い続け、発信、実践、良いことの積み重ねをすることが大切で、「住みよい地域、住みたい地域」を目標に地域活動を行っています。

<本間先生>

中学校と町内会の防災活動といったときに、それが「育む」という言葉で表現されていたということがとても印象深かったです。そこで、そのような活動をすることにより、学びが中学生のみならず、大人、それから地域社会にも広がっている素晴らしい活動ではないかと思えます。

地域文化を醸成するというお話もありました。簡単な言葉で言うと、地域の雰囲気です。その地域の雰囲気というのは、地域に住んでいる一人ひとりの振る舞いが、その雰囲気をつくる。それが、長い歳月と共に出来上がるのは文化、地域文化なのではないかと思えます。

街かどカフェの話では、みんながスタッフなのだと感じました。みんながスタッフ、とても良いです。そのようにして、みんなが広がることによって点が線になり、線が面になることによって、地域全体に広がっていく。そんな流れを示している。菅原さんの振る舞いそのものが、他の人たちのリテラシーを上げる。そのようなことにつながっているのではないかと思えます。

それから、アダプトサインという言葉がありましたが、それは住民の心意気を示すということにつながるのではないかと思えます。我々はこんな思いで、こんな地域をつくらうとしているのだと実践を通して示しているのではないかと思えます。

最後に、社会関係資本という言葉がありました。横文字で言えば、ソーシャルキャピタルとなります。このソーシャルキャピタルで大事なことは、つながることです。おっしゃるとおりです。このつながるというのは、実は大切な社会資源なのだと、そのつながりが安心安全という利益を生むのだという考え方です。とても素晴らしい発表だと思えました。ありがとうございました。



「おるいず」というのは、「All With (オールウィズ)」みんな一緒にサポートしたいという意味ですが、後で英語の先生に聞いたら、「With All (ウィズオール)」と言われ、そうだったのかと思いましたが、もう決めてしまったのでこのまままっています。私たちは、障がいをもった親の団体から派生したグループです。私たちの活動としては三つあり、自立支援という本人の余暇活動、サロン活動という保護者の方たちの情報共有の場、それから地域交流ということで、

バザーを通してこの子たちがこのまちで生きていますよということを広く啓蒙したいというところがあります。

居場所づくり

自立支援は本人とリーダーさんと呼んでいるボランティアさんと一緒に活動する時間で、月1回の活動です。学校や職場ではない、自宅でもない、居場所。そのようなものをつくりたいという思いがありました。その自立支援の中で本来ならば社会の中で生活しているところを、縮小版という形でボランティアさんと一緒に、いろいろなところに行く時の交通機関の使い方や公共の場所でのルールを経験したり、時には場所を借りて調理や季節のお楽しみをしながらゆったり過ごしています。

それから、親のサロンでは、親たちの情報の共有、例えば自立支援法やいろいろな事業所の情報や研修の情報等、今私たちの身の回りで起きていることを共有し合っています、また、施設見学や保護者の「知りたい」ということをできるだけ吸い上げて茶話会もしています。

バザーを通して地域交流

地域交流としては、バザーの時には本人たちも一緒に、来てくださった方たちへのお茶出しや会計の手伝いをしながら活動しています。地域の民生委員の方や賛同してくださる方々の理解も増えてきていますが、親がスタッフであり活動本体なので、だんだん年をとってきてフェードアウト気味になってきているところが現状です。ですが、あの子たちの仲間意識や、できなかったことができたとか、地域の方に声をかけられることが増えたこと等考えるとやってきてよかったととても感じています。

<本間先生>

後藤さんの発表の中で、とても大切なキーワードがありました。それは、居場所ということです。居場所というのはとても大事なキーワードです。学校ではない、そのようなところではない、その人にとって心休まるものをつくるというのが、我々の活動なのだという力強いメッセージがありました。居場所というのを、私は別の言葉で言うと、心の安全基地とも言えるかと思います。これは、ジョン・ボウルビィという方が言っているのですが、その人の成長、その人の最も安心できる場所、それがあることによって、そこに身をおくことによって、その次に自立を広げていく、自立の範囲を広げていく、そのベース基地になるというのが、心の安全基地と言っています。それを、後藤さんは居場所と表現しているのではないか

と思います。多様な人がこの地域社会の中で暮らしていくといったときには、様々な居場所がこの地域社会の中に散りばめられている、そんな社会があったならば、とても安心して暮らしやすい、住みやすい、そんな地域社会になるのではないかと感じさせてもらいました。ありがとうございました。

どんぐりの会 代表 戸嶋 さち さん



今日はどんぐりの会で呼ばれました。少し心細いので、若い人を一人連れてきました。どんぐりの会は、平成26年1月に結成して、6年目になります。スタッフは、今9名となり、子育て中の方が2名おります。ほとんどが若い人たちが中心となってお知らせ等を作っています。なかなか私ぐらいの年代になると、頭の動きが鈍くなりますので、作ってもらっています。

今、太子堂では子どもたちが少ないと言うよりも、子どもたちがどんどん増えています。と言うのは、今まで空き地だったところが震災後に徐々に家が建ち始めて、今、小学校2年生だと、16名もおります。少し多いかなと言うくらい子どもたちが増えています。

若い人たちの意見を取り入れながら

1年の活動の流れとすると、4月から始まって3月までやっていますが、今までは1月と8月はお休みさせていただいていました。と言うのは、お盆があったりお正月があったりということで休ませていただいていたのですが、若い人たちが月2回にしてくれという話で、もともとは月1回と思って活動を始めたのですが、今は月2回ほどやらせていただいています。はじめの頃は10時から12時までやればいいのかという形でやっていたのですが、うちに帰ると子どもたちが眠ってしまうのだということで、今は10時から14時くらいまで開いております。出入りは自由です。若い人たちを中心に、いろいろと意見を出してくれるので、いろんな活動ができるようになってきました。

「ハロウィンパーティ」を初開催

今年の大きな行事だと、夏祭りに参加したり、いつもの定例ですと、太子堂の夏祭りでブースをつくって、若い人たちに水風船を作ってもらって無料で差し上げたり、秋祭りには、子どもたちの着なくなった服を寄せ集めていただいて無償で分けています。6か月くらいで子どもたちの服は着ないのですよね。子どもたちのいらなくなったものと言うと申し訳ないですが、ぬいぐるみや使わなくなったベビーベッドなど、いろいろなものが集まってきます。今、うちの中が物置状態になっているのですけれども、やはり使う人がいるということで利用させていただいています。今年は七夕飾りでやっぺえとミッキーと作りました。秋祭りのときは、子どもたちが喜びそうな、はらぺこあおむしの小物入れを作り、ペロペロキャンディーも厚紙で作り、今年初めてハロウィンパーティーもやりました。それも若い人たちの案です。買い物ごっこをしたり、楽しませてもらっています。若い人たちのエネルギーはすごいです。これからも若い人に手伝ってもらいながら、どんぐりの会をやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

<本間先生>

太子堂には大分前にお伺いさせていただいたことがあるのですが、それからとてもバージョンアップしているなど、とても嬉しく聞かせていただきました。何よりも、若い人が参加されて、その人たちの意見を取り入れながらどんどんバージョンアップしている、そのような姿がとても良いという印象をもちました。それから、それぞれのご家庭にあるものを交換し合うというプラットフォームをつくっているということでした。これも、不用品と言えば不用品なものという言い方になるのかもしれませんが、私はそれを不用品とは思わないで恩送りと捉えます。いろいろな人に世話になったので、今度は何らかの形でその恩に報いたいということで、これを使ってもらいたいというようにしている。それは、恩送りという言葉になるのではないかと思います。このように、世話になった人に直接お返しするということがばかりではなく、自分が世話になった今があるのは、あの時があったからだという思いがあって、自分がそれをやれる段階になったら、本当はいろんな方にそれを返していく。そういう恩送りが当たり前の社会になったらとても優しいまち、優しい地域になるのではないかと印象を持たせていただいた発表でした。ありがとうございました。



はにかむ富谷 代表 若生 大 さん



私たちは、はにかむ富谷と申します。今日は5名で発表させていただきたいと思えます。この発表のためにパネルを作ってきました。

はにかむ富谷は、昨年の夏に富谷の旧役場庁舎をリノベーションしたTOMI+（とみぶら）で行われている富谷塾の一期生として集まったメンバーの中で、そのときに私がいしんまち地区の以前のような活気を取り戻すという意味合いでテーマを掲げ、賛同いただいた仲間で作ったのがきっかけとなります。その後、

11月から、富ヶ岡公園を中心として活動を始めましたが、翌年には更にご賛同いただいた30代、40代の富谷市民やそれ以外の仙台市などからも来てくれるようになりました。活動は、毎週日曜日の午前中という時間を使って、公園やその近くにある梅林、あとは歩道などの整備を行っております。

梅林再生プロジェクト



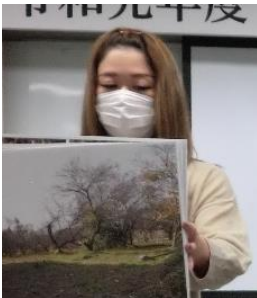
「しんまちに活気を」というテーマを掲げておりまして、それを実現すべく取り掛かった第1弾が、梅林再生プロジェクトというものを行いました。

しんまちに活気を取り戻すということで、新たに何かをつくるのではなく、もともとあるものを活用して活気を取り戻そうということを考えました。

梅林を借りたときには、腰ぐらいまであるような草で覆われていまして、これを1日掛りで刈ったのですけれども、山盛りになるくらいの草の量でした。あとは、ツタが梅の木を覆っていて最初は梅の形がわからなかったくらいなのですが、これを全部刈って、梅の木を全部整備しました。

その後は、板に一人ひとり絵を書いたり、自分の名前を書いたりして、その梅の木1本1本に愛着をもってもらうために、樹名板を作りました。

梅シロップと梅酢づくり

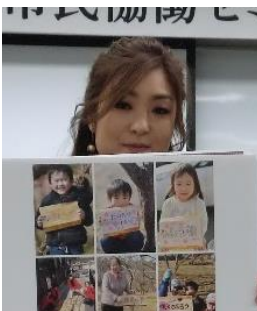


私たちが整備した梅林から梅の実を収穫して、梅シロップと梅酢づくりにも挑戦しました。

選別、ヘタ取り、はかりで測った氷砂糖や穀物酒を加えたりと、初めての挑戦でしたが、おいしくできるように心を込めて作りました。その梅シロップや梅酢は炭酸水で割り、10月の富谷市街道まつりに来場された人たちに振る舞いました。

「おいしい」とおかわりしてくれる人もいて、嬉しさと達成感があり、これからも頑張ろうと、活動へのやる気にもつながりました。

富ヶ岡公園の花壇づくり



富ヶ岡公園とは、皆さんご存知ですか。そこに花壇を作りました。花を植えて、当日は大人20名、子ども8名、それから市長さんや副市長さんにまでお忙しい中来ていただいて、一緒に花を植えたのですけれども、花の苗は全部で600本植えました。

花壇づくりは丸太を組んだだけの簡単なものなのですが、下地づくりに少し苦労しました。6月だったのですがすごく暑くて、富ヶ岡公園は結構傾斜のある公園なので、上から砂を運ぶ作業が一番大変でした。

でも、みんなで励ましあって、苦しいときも乗り越えてきました。11月17日に花の植え替えをします。ぜひ、お時間があれば、皆さんにも来て欲しいので、お待ちしております。

ぶんぶん坂の歩道整備



私たちは、10月の富谷市街道まつりの開催にあたり、富谷市内外から来ていただく人たちを出迎える準備として、しんまち通りから富ヶ岡公園にのびる坂道「ぶんぶん坂」の歩道整備を行いました。

この作業は、とみやロードサポート制度を活用し、雑草取りをして、パンジー、ビオラを植えました。花を植えるアイデアは、令和元年度第1回とみやわくわく市民会議のときに出たアイデアです。

花を植えることにより、綺麗で明るいしんまちにしたいという思いから、約1か月かけて大人も子どもも楽しみながら作業し、計400本の花を植えることができました。

モットーは「楽しく、無理なく、助け合って」

この活動を継続するにあたっては、私たちのモットーにしているのですが、「楽しく、無理なく、とにかくお互いが助け合ってやるということ」を心掛けてやってきました。あとは、私たちは頭で考えるとかではなくて、まず行動しようということです。

これは、まず自分たちの親の世代や地域の大人たちがやってきたことを私たちも見て覚えたという経験から、これをまた同じようにやっていきたいという思いから始めております。ちょうど今後ろにいるこの子も、実は私たちの仲間として、本当に戦力になってくれています。この子たちが、私たちがやっていることを見て、これを体で覚えてくれたら、先ほど本間先生もおっしゃっていましたが、富谷の30年後、非常に楽しみな市になるのではないかと、今活動をしております。

以上で、はにかむ富谷の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

<本間先生>

富谷塾の一期生ということで、学んだことをこのように具体的な形で表しているというのは、私は素晴らしいことではないかと思えます。これも一つの官民協働の成果なのではないかと思えます。

行政は、そのような住民の思いを出す場をつくるというところで参加して、それに参加した住民が志を形にする。そしてそれをまた行政がバックアップする。そのように理想的な協働の姿というのを見せていただいたような気がします。

公有地の美化というのは、とても大事です。冒頭でお話したように、このまち、富谷市をつくるのは、市長ではありません。皆さん自身です。

皆さん自身がこのまちの雰囲気をつくるのだと思っておりますので、そのようなことをとてもよく実践しているのだろうなと思っています。

それから、しんまちの活性化をしようと思っているのだと、その時にとても大事なことを言っていました。あるものを活用するのだと言っていましたね。この考え方は、実は茶道の精神で、見立てという考え方があります。

よく、見立てと言うと、あの医者は見立てがいいとか、そのような言い方をしますが、茶道で言う見立てというのは、あるものを違う角度で見る。そのことによって、そのものが持っている価値を再発見す

る。そのような考え方が、見立てという考え方です。

まさしく、若生さんたちは、そのようなことをやっているのではないかと思います。そしてそこに、若い人の感性で、梅シロップを作ったとか、花のあるまちづくりをしていくとか、そのようにどんどん見立て力が上がっているという感じがしました。

最後に若生さんがまとめて、楽しく、無理なくということをおっしゃっていました。これは地域活動を続けていくときに、持続可能性を担保するときには、とても大事なキーワードではないかなと思います。我々の地域づくりは、小さく生んで大きく育てる。そういうことになるとと思います。

協働のまちづくりのキーワード

<本間先生>

4団体の人の発表を聞いて、私は四つのキーワードを見出しました。一つは、「育む」ということです。活動は、それぞれの人の学びを助けるのだという意味で、育むという言葉。二つ目は、「居場所」ということです。我々が、安心安全の地域社会をつかって、楽しく安全に暮らすといったときに、居場所というのはとても大事だと思います。三つ目は、「若者の思いを生かす」ということです。未来のある子どもたちの思いを大人が形にしてあげるといのは、大人の責任であろうと思います。四つ目は、最後に言っていた「楽しく無理なく」ということです。この四つのキーワードをこれからの協働のまちづくりをするときにこんなことを意識しながら進めていくと、とても素晴らしいパートナーシップのある協働に展開がされるのではないかと思います。

育む

若者の思いを生かす

居場所

楽しく無理なく



<本間先生>

先ほど、市職員の自己紹介がありました。ぜひ、この応援団員を使ってください。せっかくの人材を使わないのは、この地域にとってもったいないことです。

ただ、使うといったときに、何もせずに市役所をお願いする白旗型の使い方は駄目です。

ここまでは自分たちでやるけれど、あと一歩、ここを何とか手を差し伸べてもらえると完成できる。そのような提案をして、やれることも示しながら市と一緒にやっていただければいいと思います。

皆さんのお手元にワークシートがありますが、最初は個人ワークとして、私たちが自分の住む地域や富谷市のために何ができるのか、「私／私達ができること、したいこと」「行政にお手伝いをもらいたいこと」「これをやれば、こんなまちになるだろう」ということを二つ書いてください。

そして三つ目の欄は、グループワークの話し合いの中で参考になったこと、いいなと思ったことを書き加えてください。

後でグループとして三つくらいの考え方にまとめて発表してもらいます。

<市民協働課長>

はじめに、富谷市が進める「市民の思いを協働でつくるまち」というフレーズは、富谷市の総合計画の中で、富谷市の将来像「住みたくなるまち日本一」を実現するための基本方針の一つに掲げられているものです。

また、富谷市がまちづくりを進めていくうえで、基本的な考え方としているのは、地域の思いを地域のみんなでかなえる協働のまちづくりということです。

それでは、なぜ協働のまちづくりかということですが、資料中段の、「背景」にまとめています。このなかで特に富谷市の地域特性と言えるのが、男女、世代を問わず多くの市民の皆さんが様々な分野、様々な形で地域のために活動し、活躍しているということです。

続いて、市民協働のまちづくりについての市の取組と考えについては、いくつか主な取組を記載しています。特にまちづくりの担い手となる人材や団体を育成、支援していくための仕組みづくりについては、主に、市内に6か所ある「公民館」や、社会福祉協議会が運営している「ボランティアセンター」、それから「TOMI+（とみびら）」を拠点とし、様々な支援が行われています。

まちづくりの基本となるルールづくりの整備検討については、今後、市民協働をこれまで以上に推進していくためには、市民の皆さんと市がお互いに方向性を共有できるものが必要になります。このことから、令和2年度中に、ルールを策定することで現在進めております。

ルールとは言いましても、義務や権利を制度化するといったものではなく、あくまでも緩やかな枠組みづくりといったものが、協働のルールには馴染むのではないかと市民協働課では考えているところです。ぜひ、皆さんのお考えも、本日のグループワークやアンケートなどで教えていただければと思います。

次に、市民協働のまちづくりに対する市の考えをお伝えしたいと思います。市民協働のまちづくりは、従来の「市と民の協働による市政運営」という概念と、「住民主体の地域づくり」という概念とを足し合わせたものと捉えております。そして、市民協働のまちづくりを進めるうえでは、この二つのことを同時並行的に進めていくことが必要と考えているところです。

「市と民の協働による市政運営」ということですが、富谷市の総合計画の中では、市は様々な主体との協働を進めていくということにしています。このことは、市民と市の協働ということだけではなく、企業や大学なども含めた様々な民間の主体とも協働していくという考え方です。

そして、もう一つは、「住民主体の地域づくり」ということで、このことは、本日で専門の本間先生に先ほどご講義をいただいたところですが、住民自治さらには、地域コミュニティということにも結びつくかと思えます。特に、富谷市では、町内会を中心とした地域コミュニティ活動を中心に、さらには、生涯学習、社会教育を通じた地域の人材、地域の力の育成に力を入れてきたという、歴史的背景が際立っていると思います。

最近では、地域共生、共助、あるいは地域の支え合いということが言われております。住民主体の地域づくりということは、今後、富谷市のまちづくりを進めていくうえでは、ますます重要な取組になるものと捉えております。

富谷市が進める「市民の思いを協働でつくるまち！」

◆富谷市の将来像

住みたくなるまち日本一

～100年間ひとが増え続けるまち 村から町へ 町から市へ～



◆富谷市のまちづくりの基本的な考え方

地域の思いを地域のみんで叶える協働のまちづくり (まちづくりの手法)

富谷市総合計画 基本構想(2016年～2025年)

将来像を実現するための基本方針の柱の一つに

「市民の思いを協働でつくるまち」

◆背景

- ・地域課題や市民ニーズが多様化、複雑化している
- ・少子高齢化により社会を支える仕組みが変わってきた
- ・市が十分に財源と職員を確保し、全ての課題やニーズを担っていくことが難しくなってきた
- ・男女、世代を問わず市民が様々な分野で活躍している(自主的な活動、市との連携協力など)

「市民協働のまちづくり」について市の取組と考え

◆主な取組 (現状)

- ・広報や広聴機能の充実 ・計画づくりへの住民参加の推進
- ・まちづくりの担い手となる人材や団体を育成・支援していくための仕組みづくり
(「公民館」を拠点とした生涯学習、社会教育による地域の人材育成、
「ボランティアセンター」を拠点としたボランティア育成、
「とみぶら」を拠点としたソーシャルビジネス、コミュニティビジネス支援)
- ・地域コミュニティ活動の啓発と公益活動や団体への支援
(学びとつながりの場の創出、情報発信、財政支援など)
- ・まちづくりの基本となるルールづくりの整備検討
⇒様々な主体と行政が、共にまちづくりに取り組むための指針となるもの
⇒市では市民皆さんの意見を反映しながら令和2年度までに策定したいと考えています



◆市の考え

【市民協働のまちづくり】

多様な主体との
協働

住民自治・
地域共生・共助

= 【市と民(市民等)の協働による市政運営】 + 【住民主体の地域づくり】

発表【グループ 1】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
地域住民の交流 ・街かどカフェ ・環境づくり	イベントやお祭りの開催 ・住民の参加 ・各団体のPR	市全体の活性化 社会資源の創出

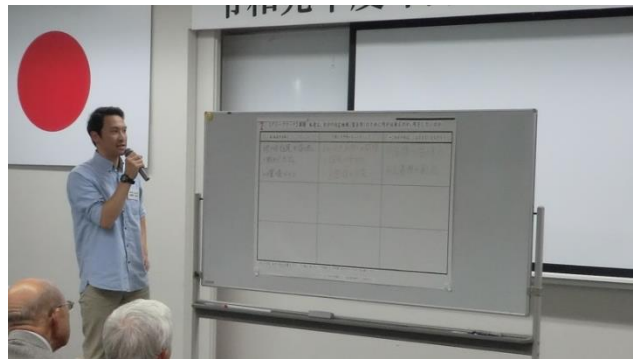
地域課題として世代間の交流があがりました。そのために活動していたのが街かどカフェやはにかむ富谷の環境づくりがまずあがりました。ただ、これはやってはいるのですが、街かどカフェの場合は若い方に知ってもらえてなくて、年が上の方だけでやっているようなことを伺いました。

若い方に知ってもらうにはどうしたら良いかということで、行政にお手伝いしてもらいたいことでは、世代間を問わず市民の方に参加していただけるイベントやお祭りで、各団体がPRする場を設けていただければ、このような活動をしている団体もあるのだと知ってもらえるきっかけになるのかなと思いました。

そこで結果として市全体の活性化、社会資源の創出、先ほどのはにかむ富谷の発表でもありましたが、子どもが結構参加していろいろなお手伝いをしてくれているのですが、その場で子ども同士が勝手にコミュニティ形成をしたり、しんまちに元々いらっしゃる方と勝手に仲良くなって、おうちに遊びに行ったりしています。それが、将来その子どもたちにおいても、地域にとっても、社会資源として役に立つのかなという思いがあります。

<本間先生>

多世代の人が集まっていろいろなお話をしたり、活動することによって社会資源の創出につながるというお話がありました。これは非常に大切なキーワードなのではないかなと思います。



発表【グループ2】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
いろいろな世代 ^の 交流する場の ^{地域} 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機会と場の提供 ・ 減免 ・ イベントにおよぶ助成金 	住みよくなる町
安心 安全 利便 情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報開示 (良いことも悪いことも) ・ 災害時の体制化 	安全 安心 利便性のある地域に
通勤の企画 券	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の便 (土日の市民バス運行) 	いくつになっても 生きがいを持つ。

グループ2では、本当にいろいろな意見が出ました。グループ1と同じこともたくさんありました。いろいろな世代が交流する、このいろいろな世代というところに、団地同士の交流がなかなか無いということで、そのような交流もあるといいのかなと思いました。

そのために行政にお手伝いしてもらいたいことは、機会と場の提供。これは自分たちでもやらなくてもいけないのですけれども、一緒に機会と場の提供を考えていただき、あるいは今の公共施設を使うのに少し減免申請が厳しいので、イベントによっては減免ができるようなシステムがあるといいかなと思います。

あと、イベントによって助成金などが出ると嬉しいという話もありました。そうすると、住みよくなる町、活気のあるまちになるのではないかなという意見です。

あと、いろいろな世代の人の困ったことなどの情報を共有ができればいいよねということになりました。私たちも情報の共有はするけれども、市でも情報の開示をしてもらえるとすごく良いと思います。

良いことはどんどん開示するけれども、今このようなことが課題ですということも逆に開示してもらうと、なかなかそれは他ではしていないので、あえて正直に出してもらおうと良いと思います。

他の地域の人が富谷はどういうところかなと思った時に、富谷はこのようところが課題だといっているなら他のところはどうかのだろう、他のところはもっと大変そうだというような比較ができるように、良いところはどこでも出しているけれども、あえて課題を出すの良いのではないかなという話がありました。

あと、障がいを持っている方たちが、災害があるとどこにSOSを発信して良いかわからないという、

困っているお母さんたちもいたということなので、災害時の体制化というのも町内会でもしていかなければいけないと思いますが、そこは市と一緒にするといいいのかなと思います。そうすれば、安全安心で利便性のある地域になるのではないかなということです。

それから三つ目は、活動の企画、参加をどんどんしたいということで、今日来ていた方の中で、もう免許を返納してしまいが、このようなイベントには行きたい。でも、土日には市民バスが動いていないので、どうやってここまで来たらいいかわからないということが、これからどんどん出てくるものだと思います。

そのようなことを、どうしたらいいか一緒に考えてもらうといいいのかなと。そうすればいくつになっても生きがいを持てる、そのような市になっていけるのではないかと思います。これが、私たちグループ2の発表です。

<本間先生>

この短い時間で、協働におけるキーワードがたくさん出たのではないかと思います。それから、富谷らしい内容だと思ったのは、交流と言うときに地域内交流だけれども、富谷市は団地なので団地間、実は団地間でニーズが大分違いますので、団地間の情報交流というのは非常に大切ではないかと思います。

それから情報開示と言われているのですけれども、課題もみんなて共有してみんなの力で解決するような、情報の共有の仕方、開示の仕方があるのではないかという提案、とても大切なご提案だったのではないのかなと思います。

それから障がい者のことが出ました。今は多様性といいます。どのような状態でも住み慣れた地域で暮らし続けることを支える。これが私たちにとって非常に重要なので、そのようなことにも触れていただいた発表だったと思います。



発表【グループ3】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
美しい花のある街つくり	企業、店舗に美化に協力と指導	居場所のある街になるだろう 所
隣近所の班作りしたい	広報で自助、共助の必要性を発してほしい	隣近所のトラブルが少なくなる

私たちのグループのできること、したいことは、美しい花に限定したわけではありませんが、美しい花や美しいことが嫌いな人間はいないと思います。キーワードですね。これを美しくすれば、最後にこうなれば、というのは優しい人間が育つ基本となっています。そのために美しいまち、隣近所の草取りもそうです。そのようなものを、美しいまちにしたいと考えました。

個人については、私も隣近所で今日集まった方をはじめ、話はある程度できるのですが、企業や店舗が入ってくる時に、市に何らかの手続きが入ってくると思います。その時に、市はどのように指導しているか、できるだけ町内会やこのようなものに協力して欲しいということ、やっているとは思っていますが、どのようにやっているのかはわかりませんので、そのあたりをやっていないければやってもらいたいし、やっているならきちんと指導していただいて、居場所のあるまちづくり、そして優しい人間が育っていくまちづくりになるだろうと思います。美しいのが嫌いな人はいないという前提で美しいを取り上げました。

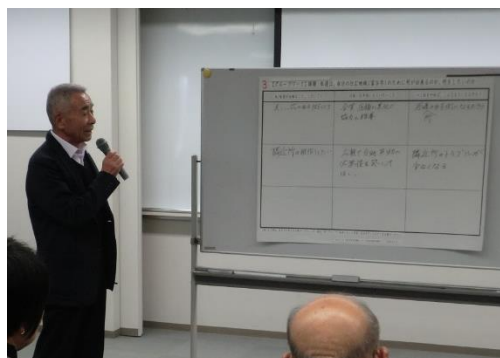
それから、隣近所の町内会も含めてですが、町内会もあまり大きくなりすぎて、一気に何をしたいといっても進まないで、やはり両隣3軒、隣近所の班づくり、これをしたいということで両隣3軒、班づくりを基本としてやっていきたいと思います。この中に、先ほどの飲みニケーションなども、町内会で飲み会はあるのですが、班だけで飲むということは、おそらく私らのところでもあまり少ないですね。ですから、やはり隣近所、班づくりを優先したいと思います。

そのためには、広報でも取り上げていると思うのですが、自助、共助の必要性をどのような形で常に発信していただいて、やはり自分でやること、隣近所でやることを自覚してもらったり、意識してもらったりすることが必要なので、発信して教えてもらいたいです。そうすると隣近所のトラブルもなくなって、草が出てきて困るとか、枝が伸びて困るとか、音が出て困るとか、自己中心なことがありますけれども、そういったことが常に前の方で解決できるのではないかと思いますので、広報の協力をお願いしたいと思います。

<本間先生>

美しいというのは普遍的なキーワードだということ。とても素晴らしい、力強いお言葉だったのではないかなと思います。そのような美しいものは、ひいては優しい心を育むのだということです。当たり前のように思っていることなのですからけれども、とても大きな力があるということをご報告いただきました。

それから私たちの生活の基本である隣近所をもう一回大切にしようというお話でした。向こう3軒両隣、そこからコミュニティが出来上がっていく。そして、そのようなことについて自助、共助、公助の啓発を、いろいろな機会に行政からしてもらおうと、気づきが促されるのではないかということでした。



発表【グループ4】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
地域コミュニティ整備 (大人・子供おの 交流の場)	空家活用(仲介)	防災、防犯。 地域ぐるみで 見守りでできる
町内会運営改革 (富谷に入った若者 若者に優しい)	相談、仲介(随時)	町内会単位で 行発には？

たまたま私たちのテーブルには、各町内会の方々が集まりましてご意見をいただきました。その中でいろいろと課題はあるものの、まとめたものとしては二つになります。

一つ目は、地域コミュニティの整備ということで、大人や子どもが集える場、このようなことを整備したらどうだという意見が出てきました。どうしても今、防犯上などがいろいろとある中で、なかなか交流ができていないということですし、逆にそういった場があれば、もっと人の交流が深まるのではないかという話です。具体的に言えば、これが当てはまるかどうかですが、駄菓子屋さん。皆さん、子どもの頃に通われたことがあると思うのですけれども、駄菓子屋さんだと大抵若い人ではなくお爺さんお婆さんがやっていると思います。そのような人たちが、地域の子どもたちを見守り、育て、やがてそれをつないでいくというスタイルが昔はありました。これがやがて無くなってきて、お年寄りと子どもの交流も無くなってきたのかなと思います。それに近いようなスタイルで、こういった地域コミュニティを整備できたらなということで、まとめさせていただきました。

あとは、最近も台風の影響がありましたけれども、災害に対して強いまちということで、このような形態の中では、特に在宅されている方々で炊き出しであったり、普段家庭にいる人が、言い方は悪いですが当てにならなかつたり、そのような人たちが協力してできるような体制も含めたものも整備したらどうかという意見がありました。

二つ目については、皆さんからも出ておりますが、町内会単位でやるといういろいろな問題が出てきているようです。富谷は、元々住んでおられる方よりも、どちらかと言うと他から来られた方が多く、あとは若者の多いまちということですが、その一方ではなかなか町内会となると、大変失礼ですけれども、今、ご年配の人たちが中心になってやられているのが大体の現状かなと思います。もっと若者からの力を借りたいという部分では、もう少し入ってきやすい体制づくりというものも必要なのではないかなという話もありました。

こちらについては、やはり富谷市さんにも仲介という形で、改革という部分で入ってもらえればなというところで挙げさせていただきました。このことがうまくいけば、町内会単位、先ほどは班単位というお

話もありましたけれども、もっと富谷市の中で活動が活発になるのではないかなというところで、まとめさせていただきました。

<本間先生>

基本的なテーマはコミュニティの整備ということですね。簡単にコミュニティといっても、様々な課題を設けているわけなのですけれども、やはりなぜコミュニティということを使うのかといったときには、その構成員の交流を様々な形で再構築していく。今の家庭の中や今までの私たちの社会の中では、大人が子どもたちを見守り、育むというのが当たり前の社会だった。それがだんだん弱くなっているのではないかというご指摘がありました。それをもう一回、我々は思い出していく必要があるのではないかと思います。

そして、そのようなことをやるときの母体としては、町内会になってくるわけなのですが、どうしてもご高齢の方だけの町内会になってしまっているのが若者が参加できるような、ないしは若者に参加するようなことを促す。そういう行政の支援、啓発もバックアップとしてあると、その辺が進むのではないかなというようにご提案でありました。



発表【グループ5】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
健康で暮らすこと	情報の提供	健康で笑顔あふれる町
助けあいつながり合うこと	情報と施設の提供	居場所がある住みやすい町
町の危険な所を把握する	改善	安心・安全な町

今日、ここにおいでになられている皆さんも、たぶん町内やお住まいのところの協働という活動を皆さんなさっていると思うのですけれども、引っ張り上げようと、出てきてもらおうと思ってもなかなか出てきてくれない人に、何がその協働に向かってできるのかと一番根本のところを考えたときに、まずは健康で暮らしていただければいいと思います。自分ができること、一人でもできることで、富谷市のために何ができるのかなと考えたときに、まずは健康で暮らすことではないかなと思います。

そのような考えで、皆さんのグループで出た話が健康でいるためにということで、行政にお手伝いしてもらいたいことは情報の提供、例えば健康づくりのための食の情報ですとかセミナーとか、そういった情報をパンフレットなどでもお知らせしていただきたいということでした。これをやれば、健康で笑顔溢れるまちになっていくのではないかなと思います。

二つ目は、助け合い、つながり合うことです。昨今、個人情報ということで、行政から個人的な「あそこ困っている方がおいでですよ」ということを大っぴらにはなかなかお知らせしていただけないハードルがあると思うのですが、でも近所同士がつながり合えば、あそこで困っている人がいるとか、そのようなことがつながっていくのではないかなと、そのようなときにつながり合えるのではないかなということで、行政にお手伝いしてもらいたいことは、その情報と施設の提供が個人情報は提供できないにしても、行政でお手伝いできるこのようなツールがありますとか、そのようなことをお知らせしていただければなと思います。あと、みんなが集まるときの施設の提供なのですけれども、先ほど他のグループで費用の減免という話もありましたけれども、やはり使いやすい施設、電話をかけて台帳で調べてもらってという手間を考えると、なかなかそこに時間を割いていただくのは申し訳ないなという気もしたりします。例

えば、ネットで空いているところはどこか一覧で見られたり、そのような使いやすさを目指していただきたいなと思います。気軽に集まることができれば、居場所がある住みやすいまちになるとと思います。

三つ目は、まちの危険なところを把握することです。健康に暮らすことは自分に気を配ることなのですが、これが人に、近所同士に気を配ること、この三番目はまちの状態に気を配るということで、まちの危険なところを把握する。草取りですとか、例えばお掃除ですとか、そのような時に「ここが危ないのではないかな」「ここが変わればもう少し通りやすいのではないかな」とかということを行政に伝えて、それを改善してもらおう。それをやることによって、安心安全なまちづくりと考えました。

<本間先生>

最初に、健康で暮らしてもらえよう地域をつくる。それがやはり、あらゆることの基本なのではないかという話がありました。私も大賛成です。健康である、それから例えば介護というようなことについても、今、介護予防とかありますよね。あのようなことをすると、自分のためと考えがちなのですが、実はそんなことはないのです。例えば介護保険では、市の負担が12.5%あります。それで介護予防をすると市の特別会計が12.5%浮きます。そうすると、それを例えば要介護1で、年間最低デイサービス週1回で使いましょうという、年間約6万円位浮きます。ですから、介護予防をすとか、健康に留意するということは、自分のためだけではなく、市に社会貢献するということなのです。ぜひ、冒頭にあったように、健康に暮らしてもらおうということは自分のことだけではなくて、まち全体にも関わるという素晴らしい提案なのではないかなと思います。

それからご近所同士がつながるといったときの情報という話、情報と言うとすぐ個人情報の保護となってしまうのですけれども、基本的には情報とは個人情報保護法というのは、出さないということばかりではなくて、有効に使うということも個人情報保護法にあるのです。ご提案としては、わかりやすい、使いやすい情報というのを、ぜひ行政さん、頑張ってくださいという提案がありました。とても大切だなと思います。

それから、まちの危険な場所をみんなで周知する。周知するときに、みんなで共同作業とか、環境の美化運動とか、そのようなものを通じながらそのようなことをするというのは、とても良い提案なのではないかなと思います。国際認証で、セーフティコミュニティという考え方があります。まち全体の危険な場所をちゃんと把握して、それを少しでもなくすような運動をしているというところがあります。東北では、十和田市がやっているのですけれども、そのようにして、健康に安全に暮らせるまちづくりをする。そこに官民が協働するというのは、とても大切なご提案だったのではないかなと思います。



発表【グループ6】

私/私達が出来ること、したいこと	行政にお手伝いもらいたいこと	→これをやれば、こんなまちになるだろう
<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">居場所づくり</div>	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">PP</div>	<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> 子育て協会の 月会 </div>
<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> 機会づくり (3,4) </div>	<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> オールとみや 学校が有 との連携 資金援助 </div>	<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;"> オールとみや One Team. 未来に 取り組む 手前 10年後 ありたい </div>

我々のグループでお話しして感じていたことなのではございますけれども、特に皆さんも強い思いなどを持たれていて、既に活動を始められている方が非常に多いグループだったという印象でした。

私たちのまとめとしまして、私たちが出来ること、したいこととして、様々な取組があるのですけれども、大きく分けるとまず居場所づくりということ、きっかけづくり、機会づくりということがあるのかなと思われました。

具体的に申しますと、子どもたちに対していろいろな経験や学びをさせるためのイベントの企画をする。それから同世代、若い10代、20代の方がこのようなまちづくりや市の取組に興味を持ってもらうための呼びかけと活動、あとはいろいろな方がいらっしゃいます。若い方、高齢者の方、健常者の方、障がい者の方などがいらっしゃると思うのですけれども、そのような方々が働けるための場所づくり、実際そのような工場などを立ち上げてやってみたりとか、そういったお話が出ておりました。そういったものを各地域で取り組むことによって、我々として目指す社会として、子どもたちから高齢者、障がい者まで、やりたいことが溢れていることです。そして、そのやりたいことを実現するための場所が設けられている、用意されているというための活動を小さいところから始めて、未来を見据えながらやっていけたらと思います。

そして、全体を通じて、私個人が感じたことなのですが、今日、発表されていた方が4名いらっしゃいましたけれども、それぞれの地域で、規模は大小ございますけれども、いろいろな素晴らしい取組をされているのです。でも、なかなかこのような場に来てみたり、あるいは自分でアンテナを張ってちゃんと情報収集をしないとそのような取組をまず知らないのです。知ることができない。せっかく地区でそのような良い取組が行われているのであれば、例えば成田でそういう活動があるのであれば、成田以外の方にもお越しいただいて、そのような活動を知っていただいて、それを地域に持ち帰って、始めていただくというものがあればいいなと考えておりました。

ここに今、行政にお手伝いもらいたいことと、実現したい理想ということで、「オールとみや」とここに書いたのですけれども、ここに集まっている皆さんを含めて、それぞれ思いを持って地域で取り組まれ

ていることを、地域という壁を越えて、富谷全体に広げていけたら、富谷市全体の話ですので、もっといいまちづくり、富谷市が目指している、「住みたくなるまち日本一」の実現に少しずつ近づいていけるのではないかなと思います。

我々としては始められることはたくさんあるのですが、やはりどうしても難しいこともあります。具体的には、市や町をまたいだようなPR宣伝活動や、工場を立ち上げるなどに関しては、やはり資金も必要になりますので、補助金を設定していただくとか、学校教育に関してはなかなか住民や民間では入っていけない領域になりますので、そういったところに関しては行政が、具体的には教育委員会などそのようなところに、学校や学童保育のお声がけをいただければNPOですとか、我々のような地域住民レベルで始めている活動にも勢いが増してくるのかなと思いました。

<本間先生>

富谷市はいいですね。このような若い人が、自分の考えをきちっと整理して、みんなの前で述べることができる。そういう場がある。人材がいるというのは、この富谷市のカそのものではないかと、私は感心して聞いておりました。今のお話でまとめていただいたので、私が申し上げるのはほとんどないのですが、キーワードで、居場所ときっかけづくり、チャンスをつくるということがとても大事だというお話がありました。その通りだと思います。そのような場があるというのは、いろいろなものを生んでいく、創造していく、そういう泉になるので、この居場所とかきっかけづくりというのは、とても大事ななと思います。

一方、せっかく富谷市で様々な活動があるのだけれども、それが知られていない。これは、もったいない話です。これを「オールとみや」にするような、そのような場をこれからつくっていくということも一つの課題なのかなということがありました。

あと、教育とのコラボということがありました。やはり教育は非常に大事ですね。教育を学校に任せるだけではなくて、大変忙しい教育の場を市民が手伝ってあげる、市民と教育、学校現場というのがコラボして、皆さんのご子息の学びの場をみんなで支えていく。学校を支えていく。そのようなことも、これからの協働の姿として大切なのではないかなということを感じさせていただいた発表でした。



6 まとめ

<本間先生>

6グループの発表がありました。どれも素晴らしい話だったと、私は思っています。何よりも、白旗型の提案がないというのが、とても嬉しいです。要求型、陳情型の発表ではないということが、皆さんの力を表していると思っています。

ぜひ、今日の話については、市民協働課でまとめていただいて、それを今日ずっと市長が最初から最後まで聞いていらっしゃるのです。なかなかこのような市長はいないのです。多くの場合は、ごあいさつをして、あとはよろしくと帰っていくような人がとても多いです。いずれ、皆さんからの貴重な提案を何らかの形で市長の言葉として、皆さんにもう一回反映していただきたいと思っています。

7 閉会

【富谷市副市長 西村 一慶】



皆さん、大変お疲れ様でございました。そして、本間先生、本日は講師をお務めいただきまして、誠にありがとうございました。

今日、皆さんからいろいろなお話を聞かせていただきました。特に、最初の4団体の方から、それぞれの活動もご紹介いただきました。今日は市民協働セミナーということで開催させていただいたわけですが、私どもも改めて市民協働について考えさせていただく良い機会となりました。

特に、発表いただいた方の活動は、協働と言うよりは自主的に、自ら自分で活動されているという中で、私たち行政ももう少し関わることができるのではないかと、そんな思いも改めてさせていただくような場にしていただきました。

そして六つのグループに分けてのワークショップの中で、皆さんからいただいたいろいろなお話、市への提言も含めて、どのような形で我々も参画できるのか、一緒になって市をつくっていききたいということで、改めて考えさせていただく良い機会にもなりました。

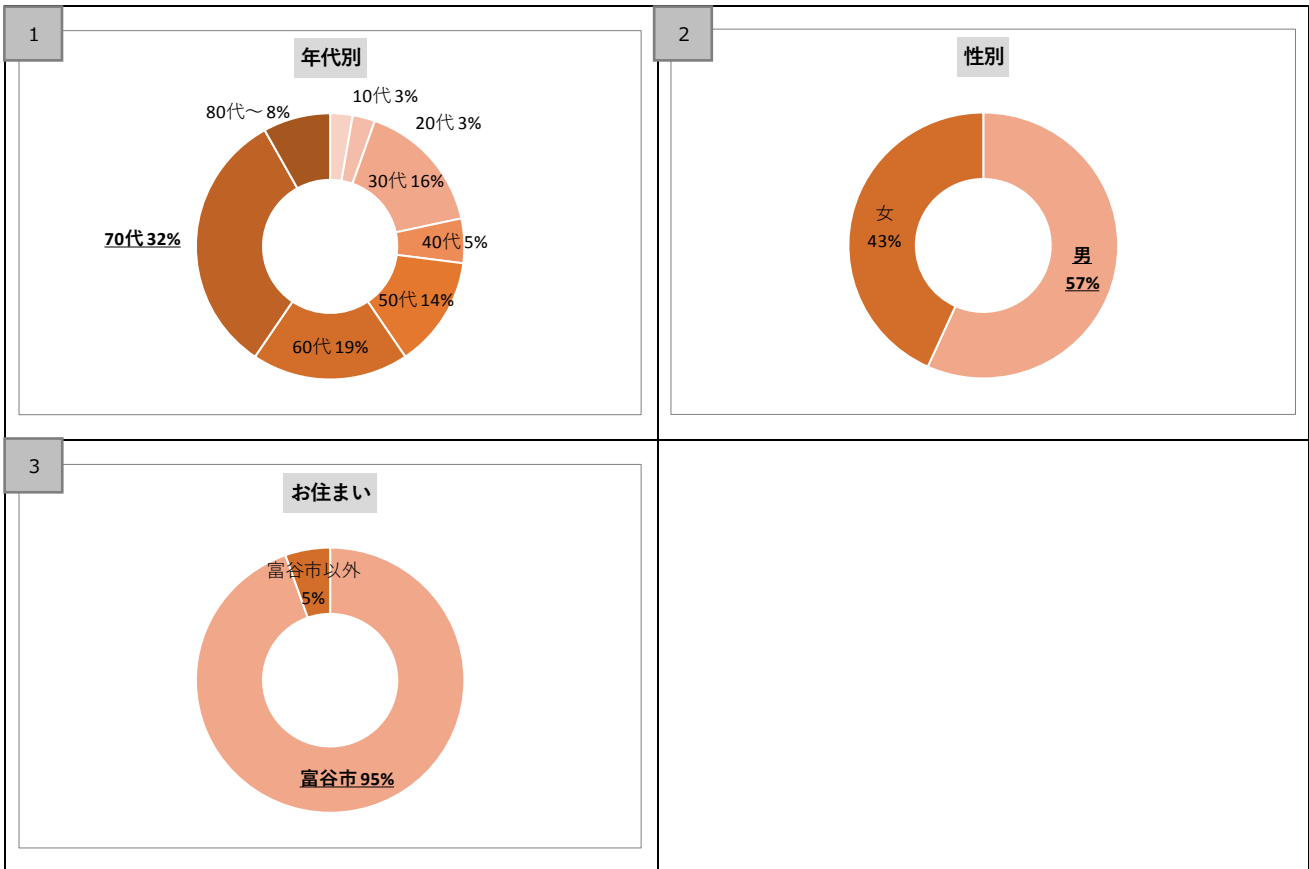
今日の会議だけではありません。富谷市は、いろいろな形で皆さんと意見交換させていただく場を設けておりますので、いろいろな場でまたご参加いただきまして、一緒に「住みたくなるまち日本一」をつくりたいと考えております。引き続き一緒に活動していければと思います。本日はどうもありがとうございます。

8

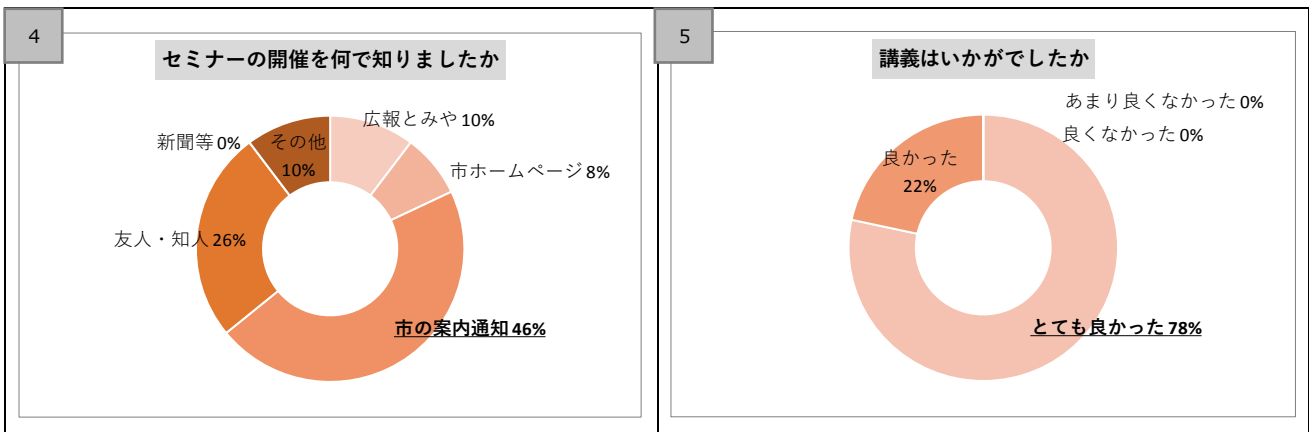
参加者アンケート

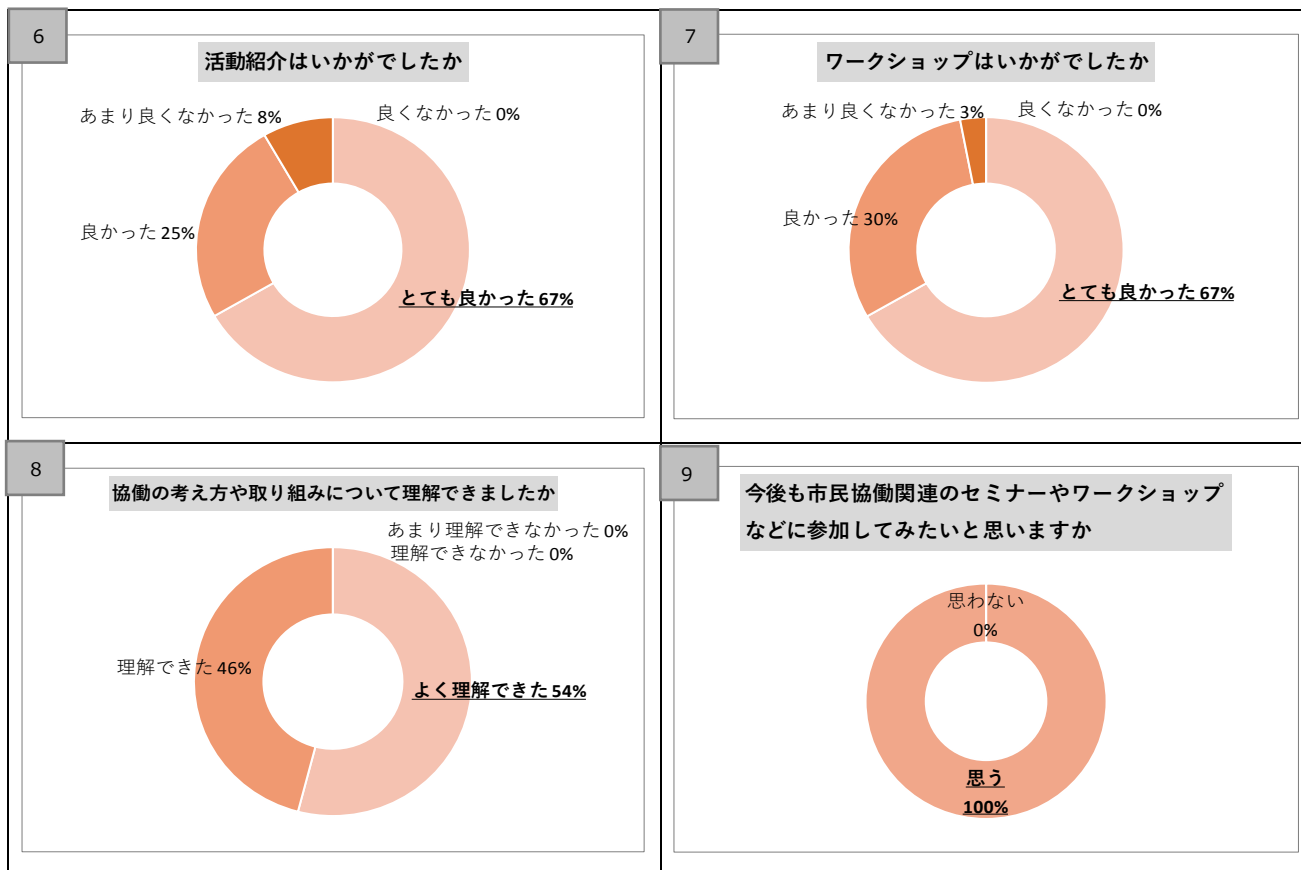
参加者数	41名 うち一般参加者 35名、活動紹介発表者 4名、講師 1名、傍聴者 1名
対象者数	39名 うち一般参加者 35名、活動紹介発表者 4名
回答人数	37名
回答率	94.9%

(1) ご自身についてお聞かせください。



(2) 本日のセミナーについてお聞かせください。





10

(1) セミナー全般についてご意見・ご感想等ございましたら、ご記入ください。

市民の皆様の方々の活動などを知ることができた。
本間先生の説明はわかり易く最高に良かった。
ソーシャルワークは特別な資格が必要だったかと考えていましたが、そうではない事に自信をもってこれから住民の方に接することにした。
差別のないようにする。
今日のワークショップの意見を行政に反映していただきたい。
時間配分要検討。
本間先生のお話しはとても聞きやすいですし、わかりやすい。とても良かった。
参考になる事が多かった。
市民協働課のメンバーでメモしている者が一人も居ない、これは茶番なセミナーであった。
いろんな団体がある事を知り自分はまだまだ勉強しなければいけないと反省しています。
活発な意見交換ができた。
わかり安い説明であった。
あたたかいふんいきでよかったです。
ワークショップは少し苦労話、問題点をこうして改善したなどの話しを聞きたかった。
有効な時間でした。
実り多い楽しい企画をありがとうございました。

何より本間先生の1つ1つのまとめが、とてもわかりやすく納得するものでしたし、発表していただいた方々の活動・人柄に心打たれました。
大変勉強、参考になりました。
大変為になる話を聞くことが出来た、このような機会はありがたい。
ワークショップの時間が足りないように感じました。
実際に活動されておられる方々の生の話を聞く事が出来て、とてもよかったです。本間教授のお話がわかりやすく、研究の方々からの裏付けが嬉しいです。
非常によかった。

(2) 市民協働を進めるためにはどのようなルールがあると良いと思いますか。

より多くの人に参加できるようにオープンなもの。
ルールがあると入りづらいところがあるのでフリーが良いと思います。
情報公開
ルールという入りにくくならないかな？
行政職員は机上で仕事をするな。
一人一人が自由に意見をいつでも発表できる場、無理なく自然体であること。
一人一人の意見を受け取り否定をしない。
交流が大事。
協働活動の提案時に市と相談できるようにしたい。
努力
「ルール」というのはふさわしくないかと。想いの共有の場（今回のセミナーすばらしかった）を創造しPRしていただきたい。
人の考えを否定してはいけない。
ネガティブな意見は×、色々な意見を否定せず前向きに意見を出していく！！
すべての市民が活動できるようなる。

(3) その他、市民協働の推進などについてご意見等ございましたら、ご記入ください。

早く20人体制迄盛り上げて欲しい。
年に2回ほど実施して下さい。非常に勉強になります。
市民に積極的にPRしてもらいたい。
何故、進展しないか行政自身が考えよ。
出来るところから市民が役者になって。
貴重な時間をいただき良かったです。
また、このような機会をもうけて欲しい。
ひっぱって行く人の育成が必要と感じた。
市とこのような場で交流するという地道な活動をたゆまず続けていただき、互いに親近感を深めていけたらと思います。

定期的に開催をお願いします！

出来ることを何でも協力したい。

今回参加された皆様の意見の反映をどうぞよろしくお願い致します。

30数年前、町内会に「お茶飲み会」を立ち上げました。今は妻が参加しており感慨深いものがあります。本間先生のお話は学問として体系的に話されましたが、私の経験ではその都度住民の声を聞いてそれを実行する事と思います。それが長続きの秘訣と思います。